Himeji City Science Museum
姫路科学館 サイエンス トピック
Dec. 15. 2023. No. 593

科学の眼
まなこ

発行:姫路科学館（〒671-2222 姫路市青山 1470-15 電話:079-267-3001）
カラーでもご覧いただけます https://www.city.himeji.lg.jp/atom/

生物シリーズ

温暖化の影響？

南方系昆虫の分布北上

Southern insects moving northward

姫路科学館 学芸・普及担当 宮下直也

正式な定義はありませんが、日本では南西諸島や九州・四国南部などを主な分布域とする昆虫（生物）のことを南方系昆虫（南方系種（しゅ））といいます。近年、そのような昆虫がより北方の地域に侵入・定着する事例が散発しています。彼らはいわゆる外来種（人為的に分布域外に移動された生物）とは違い、自力で北方へ分布を広げていると考えられています。今回は、播磨地域におけるいくつかの南方系昆虫の北上事例について紹介します。

■リュウキュウコオロギバチ *Liris deplanatus binghami* Tsuneki, 1967

リュウキュウコオロギバチは九州・四国以南にのみ分布するハチでしたが、2010 年以降、山口県、静岡県（伊豆半島）、神奈川県、千葉県などで見つかるようになりました。2022 年 12 月 2 日、姫路科学館の敷地内で本種を採集し（写真１）、近畿地方初記録として、兵庫県の昆虫雑誌「きべりはむし」で報告しました[1]。これまでの記録から考えると、本種は瀬戸内海沿岸全域と千葉県以西の太平洋沿岸で広く見つかる可能性があります。

写真１　リュウキュウコオロギバチ
（2022/12/2　姫路市青山）

■ベニトンボ *Trithemis aurora* (Bermeister, 1839)

ベニトンボは、オスの翅（はね）と体色が鮮やかな赤色で、体長（頭からお尻まで）が約 3、4cm のよく目立つトンボです（写真２）。日本では南西諸島と九州に分布するトンボですが、近年北上傾向にあります。姫路市では 2019 年、小学生によって初めて発見されました[2]。

写真２　ベニトンボ（2023/10/6　姫路市青山）

写真３　ヒラズゲンセイ♀標本
（2023/7/22　姫路市保城　高見晃成さん採集）

■ヒラズゲンセイ *Synhoria maxillosa*（Fabricius, 1801）

ヒラズゲンセイはツチハンミョウ科の甲虫で、もともと日本では南西諸島や高知県など南方にのみ分布していたと考えられていますが、現在では姫路市でも比較的普通に見られるようになりつつあります。写真３は姫路市内の小学生が採集したものです。

■カバマダラ *Danaus chrysippus chrysippus*（Linnaeus, 1758）

カバマダラは翅（はね）を広げた大きさが約7､8cmのチョウで、南西諸島に分布しますが、兵庫県でも偶発的に見つかっています。姫路科学館では野生生物の記録写真を公募し展示する生物多様性写真展「ひめじのいきもの」*を毎年開催しており、昨年度は稲美町で撮影された本種の投稿がありました（写真４）。偶然飛来した個体か、その直近の子孫と思われますが、今後定着する可能性があり、継続的な観察が必要です。この写真は稲美町初記録として「きべりはむし」で報告しました[3]。

写真４　カバマダラ
（2022/10/31　姫路市青山　鹿籠六眞さん撮影）

南方系昆虫の分布北上は、発見場所ごとに初発見年の冬の平均気温と関連付けて温暖化が原因と言われることがありますが、必ずしも原因は明らかではありません。写真や標本による記録の蓄積が重要です。地域レベルでは誰でも新発見のチャンスがありますので、みなさんもぜひ色々な生き物を観察してみてください。

＊ 2024年1月31日まで、第７回「ひめじのいきもの」の写真を募集しています→

参考文献

1 宮下直也，2023．近畿地方初記録のリュウキュウコオロギバチ．きべりはむし，46（2）：37.
2 石田眞載・石田哲載，2019．姫路市初記録となるベニトンボを採集．きべりはむし，42（2）：63-64.
3 宮下直也，2023．稲美町で撮影されたカバマダラ．きべりはむし，46（2）：36.